

## ■ グループ紹介

# 沖 縄 電 力 株 式 会 社

## 1. 沿革

当社は、昭和47年5月15日、沖縄の祖国復帰に伴い沖縄振興開発特別措置法に基づき国の特殊法人として設立され、当社の前身であり琉球列島米国民政府の一機関であった琉球電力公社（特殊法人）の業務を引き継ぎました。

その後、51年4月1日、5配電会社を吸収合併し、電力の一貫供給体制を確立しました。

そして、63年5月、沖縄振興開発特別措置法の一部改正が行われ、当社の民営化が決定し、同年9月9日の閣議を経て、同年10月1日民間企業として新たなスタートを切りました。

## 2. 設備の状況

当社の主要設備の状況は次の通りです（平成2年3月31日現在）。

・発電設備	汽力	715,000kW（2箇所）
	ガスタービン	89,000kW（2箇所）
	内燃力	98,330kW（13箇所）
	合計	902,330kW（17箇所）
・変電設備	総容量	3,020千kVA（113箇所）
・送電線	亘長	467km
・配電線	亘長	7,769km

## 3. 現況

資本金	7,364百万円（平成2年3月31日現在）
従業員	1,429名（平成2年3月31日現在）
売上高	97,228百万円（平成元年度）
本社	沖縄県浦添市牧港5-2-1
東京支社	東京都千代田区永田町2-12-4（山王興和ビル9F）
支店	5（沖縄本島3，宮古1，八重山1）

## 4. 研究開発

当社は、多くの離島を抱えておりますが、これら離島の電源は全て石油を燃料とするディーゼル発電設備

であり、しかも小規模・単独系統に加え、燃料輸送・貯蔵対応のコスト増及び運転・保守に人手がかかることから、発電コストが沖縄本島より割高となっております。従って、離島の電源の多様化と発電コストの低減は大きな経営課題の一つであります。

この課題解決のため、当社では、国の「サンシャイン計画」及び「ムーンライト計画」に参加し、燃料電池発電、太陽光発電、風力発電の実用化技術開発に取り組んでまいりました。

このプロジェクトは、分散型電源として離島の既存の電力系統に連系し、ディーゼル発電機との並列運転最適運用、無人運転（太陽光、風力）等の技術開発を主な研究テーマとするものです。太陽光発電と燃料電池発電は、すでに実証設備を渡嘉敷島に設置し、それぞれ63年4月及び元年11月から運転を開始しており、また、風力発電は2年度中に実証設備の運転を開始する予定です。

当社は、上記プロジェクト以外に、これまで修得した新エネ発電に関する技術をさらに推進発展させるため、国の計画である「沖縄エネトピア・アイランド構想」に参画し、2年度から順次受託研究を開始する予定です。

この構想は、先の「サンシャイン計画」、「ムーンライト計画」で開発が進められている太陽光発電、風力発電、燃料電池発電等を離島に多数導入し、新エネルギー発電の実用化に先鞭をつけることを目的としたものです。

以上の各プロジェクトは、いずれも新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）からの委託及び工業技術院からの補助を受け、実施中または実施する予定です。

当社は、発電コストの面から先導的地点と目される離島を対象とした新エネルギー発電システムの開発とその実用化に積極的に取り組んでまいります。

所在地 〒902 沖縄県浦添市牧港5-2-1

（文責：研究開発部課長 上里好央）